

独立行政法人国立印刷局の概要

(参考資料)

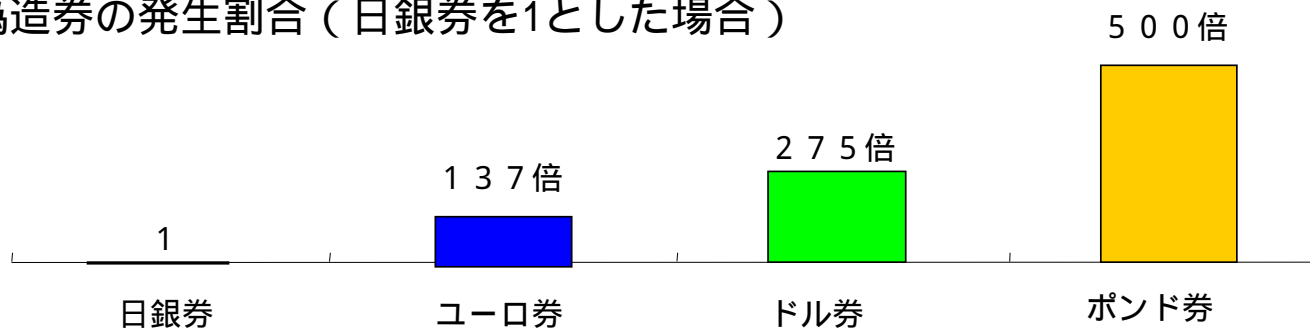
平成19年5月14日

偽造が少ない日本のお札

日銀券の偽造発見割合(275万枚に1枚)は、主要国の通貨と比較すると圧倒的に低い。

主要通貨比較

偽造券の発生割合(日銀券を1とした場合)



流通量に対し、偽造券発見枚数の割合により倍数を計算している。
(日銀券の頻度を1とした場合。)

(資料) 各国財務省、中央銀行及び警察当局の公表資料等から作成

日銀券 流通量(2006年末 : 117.8億枚) 発見枚数(2006年 : 4,288枚)

ユーロ券 流通量(2006年末 : 113.5億枚) 発見枚数(2006年 : 565千枚)

ドル券 流通量(2006年末 : 261.3億枚) 発見枚数(公表されていない)

ポンド券 流通量(2006年2月末 : 20.3億枚) 発見枚数(2006年 : 370千枚)

アメリカ財務省HPによると、ドル券の偽造券発生割合は1万枚に1枚の割合程度とされている。

主要国の銀行券仕様比較（「見て分かる」「触って分かる」 - 知覚認証に優れている日本銀行券）

			日本 1万円	米国 \$20	E U E20	英国 £ 20	韓国 1万ウォン
技術名		特徴等	2004年	2003年	2002年	2000年	2007年
五感を用いて真贋判定するための偽造防止技術	凹版印刷	インキの盛り上がりによる手触り感。					
	すかし	光に透かすことにより、鮮明な画線が観察されるもの。					
	特殊潜像模様	印刷技術と製紙技術を複合した技術であり、傾けると浮かび上がる数字や文字。		-	-	-	-
	ホログラム	見る角度により、異なった色や模様が見えるもの。		-			
	パールインキ (1)	傾けると色彩の変化が観察される。				-	
	スレッド (2)	銀行券の紙層中に帯状のシルク、金属又はプラスチックフィルムを挿入したもの。	-				

注1) 「 」は、日本の紙幣が他国より優れていることを示す。例えば、凹版印刷のインキについて、特許登録済であるが、民間企業の使用を許諾していない。

注2) 偽造防止技術には、一般に公開している上記技術のほか、簡易な道具(ルーペや紫外線ランプ等)を用いれば真贋判定できるものや機械(銀行のATM等)で真贋判定を行うもの等がある。

1) 米国、韓国も類似の技術を採用。

2) 我が国においては、スレッドは、一般の商品券にも使用されていることから採用していない。

日本銀行券の偽造防止技術

日本銀行券の偽造抵抗力を強化するため、日本の伝統的な技術をいかしつつ、券面のいろいろな箇所に「ホログラム」、「すき入れバーパターン」などの世界トップレベルの最新技術を組み込んでいる。

偽造防止技術

すき入れ(白黒すかし)
光に透かすと白黒すかしによるシャープな肖像(二千円券は守礼門)が見えます。

深凹版印刷
額面の文字や識別マークは、インキが高く盛り上がり印刷されています。

ホログラム
角度を変えると、画像の色や模様が変わって見えます。

特殊発光インキ
紫外線をあてると、印章部分や表面と裏面の一部が発光します(二千円券は表面のみ)。

超細密画線
お札の肖像(二千円券は守礼門)が、極めて細密な凹版画線によって描かれています。

すき入れバーパターン
光に透かすと、一万円券は3本、五千円券は2本、千円券は1本のすき入れられた、たて棒が見えます。

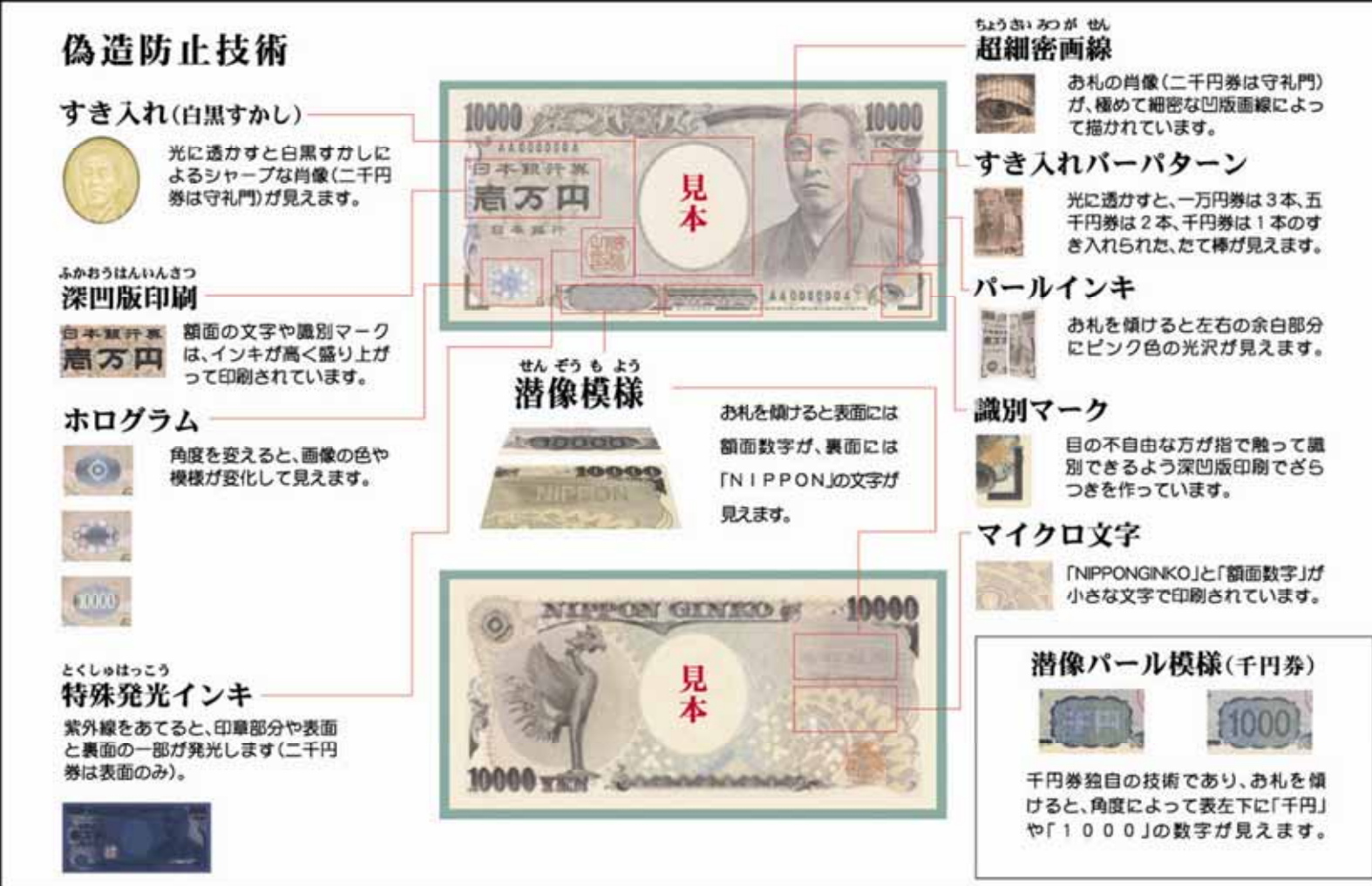
パールインキ
お札を傾けると左右の余白部分にピンク色の光沢が見えます。

識別マーク
目の不自由な方が指で触って識別できるように深凹版印刷でざらつきを作っています。

マイクロ文字
「NIPPONGINKO」と「額面数字」が小さな文字で印刷されています。

潜像模様
お札を傾けると表面には額面数字が、裏面には「NIPPON」の文字が見えます。

潜像パール模様(千円券)
千円券独自の技術であり、お札を傾けると、角度によって表左下に「千円」や「1000」の数字が見えます。



・すき入れ

国立印刷局独自のすき入れ製造技術は、鮮明で豊富な階調とコントラストを有したすき入れが可能です。これにより、肖像の目、髪の毛等の細部まで表現可能であり、人像の豊かな表情を再現できるため、識別性に優れたものとなっています。

独自開発のすき入れ手法

良好な画線再現性



日本



アメリカ



ユーロ

・凹版印刷(潜像模様)

国立印刷局の凹版印刷はそのインキが厚盛で、シャープな印刷画線が可能であるため、これを応用した潜像模様は視覚的認証性が高いものとなっています。また、この技術には、独自の特殊な凹版インキ及び独自の印刷機が必要であることから、国家規模の偽造に対しても高い抵抗力を有しています(世界の銀行券印刷の95%がA社の印刷機、世界の凹版インキの85%がB社製。なお、B社から本局の当該凹版インキの技術に関する実施許諾申請があったが、本局は許諾を与えず、日銀券の優位性を堅持しているところ。)

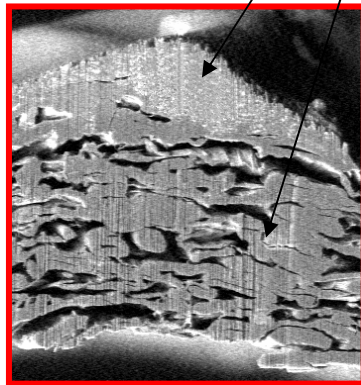
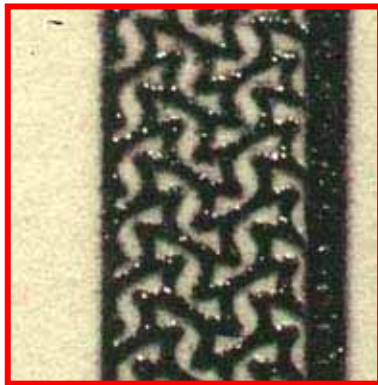
独自開発の凹版インキ

優れた視覚・触覚効果



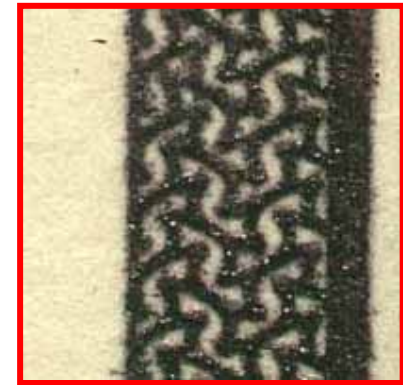
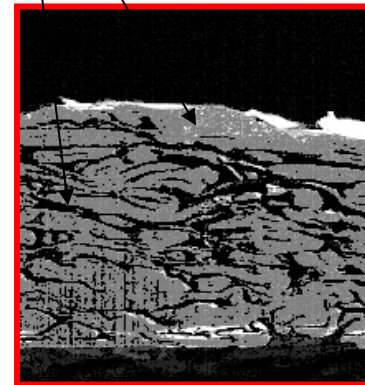
シャープな印刷画線

視覚的認証性の高い潜像凹版



インキ断面(白い部分)

用紙断面



印刷局が開発した新型凹版インキ

従来の凹版インキ

・特殊潜像模様

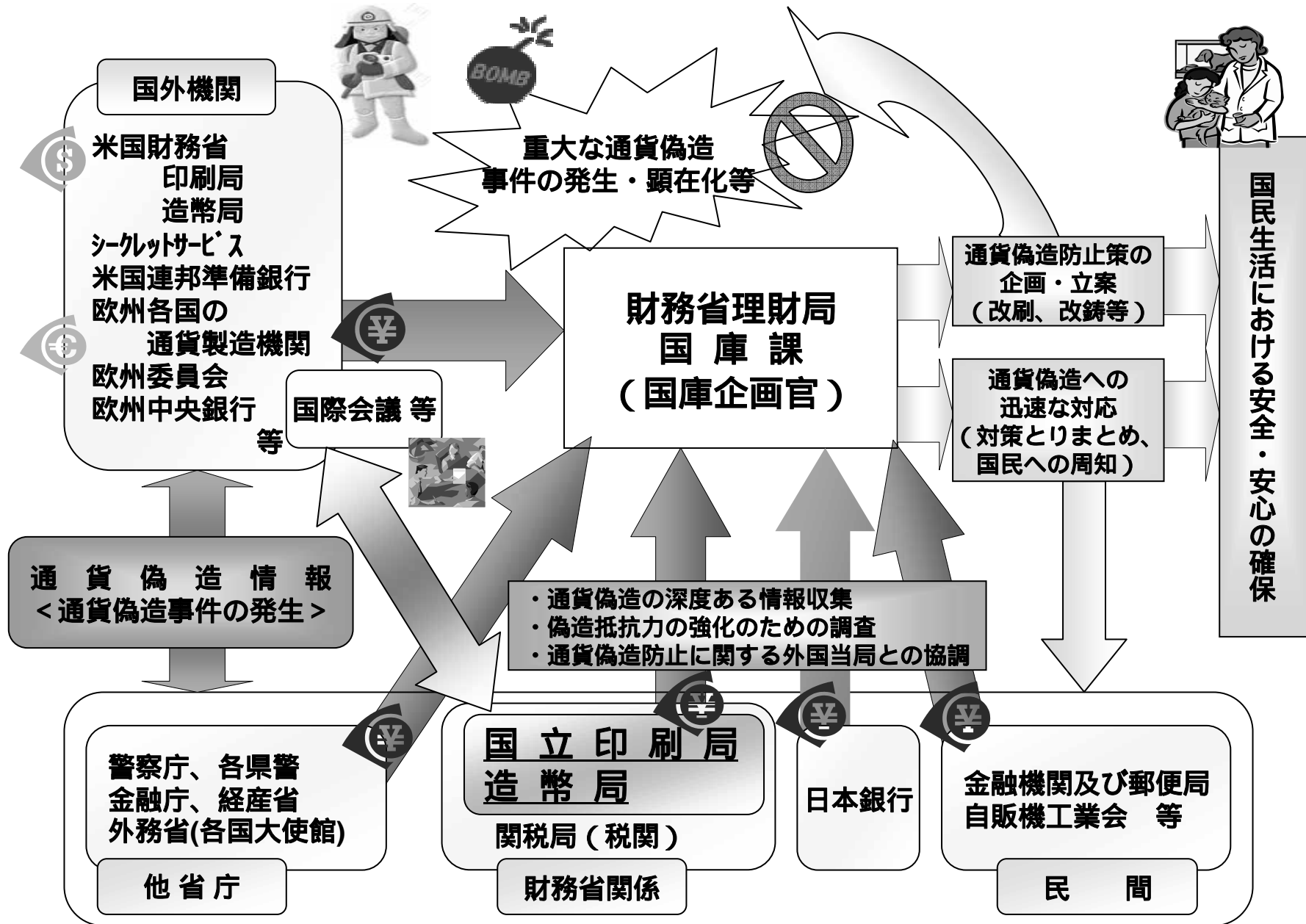
特殊潜像模様は、印刷技術と製紙技術を複合化した技術であり、海外の銀行券製造機関では同様の要素(効果)を有する偽造防止要素は製造困難です。

優れた視覚効果

製紙、印刷技術の融合



通貨偽造への対応・通貨に対する信頼維持のための体制



偽造抵抗力強化に向けての内外の関係当局との積極的な情報交換 (国立印刷局)

- 15年
- ・偽造防止技術に関する意見交換（国際刑事警察機構）
 - ・環太平洋銀行券製造機関会議に参加

- 16年
- ・米ドル券に関する技術調査（米国財務省）
 - ・欧州銀行券製造機関会議専門委員会に参加

- 17年
- ・ユーロ券に関する製造状況等調査（オーストリアの製造機関）
 - ・環太平洋銀行券製造機関会議に参加
 - ・欧州銀行券製造機関会議専門委員会に参加

- 18年
- ・ユーロ券に関する技術調査（オーストリアの製造機関）
 - ・米ドル券に関する製造状況等調査（米国財務省）
 - ・欧州銀行券製造機関会議専門委員会に参加

- 19年
- ・環太平洋銀行券製造機関会議に参加予定（11月頃）

上記の他、海外通貨当局・捜査当局より、日銀券についての鑑定協力依頼あり。

H17.1.24 (月) 日経新聞 (朝刊)

新聞記事については、著作権上の問題があるため、掲載しないこととする

官報の役割

官報の役割

法令の公布

国民の権利義務関係に直接関わる法令の唯一の公布紙

国の広報誌

国の公文書や公示を掲載する国の広報誌

会社等の情報開示機能

会社法や民法等の法令によって義務付けられている法定公告を掲載

官報業務

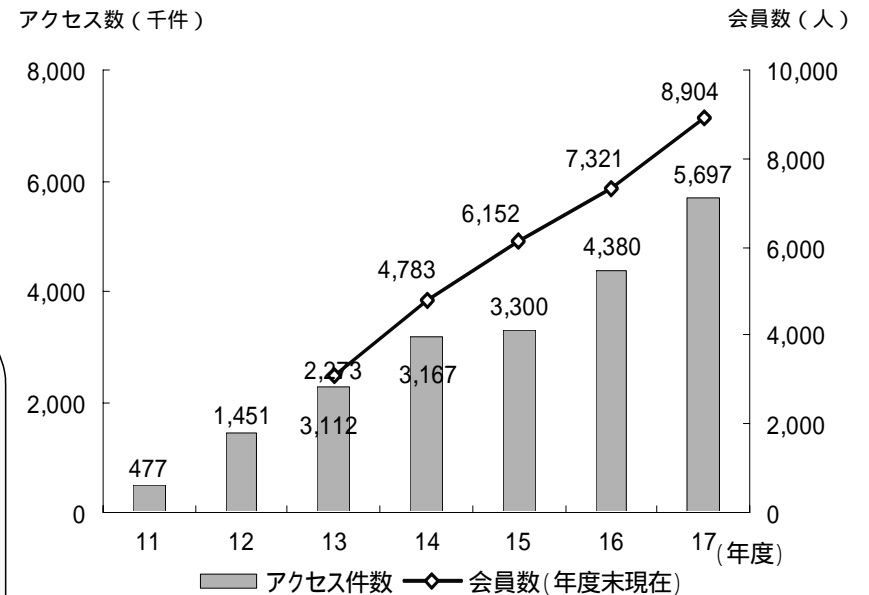
高い水準の正確性、守秘性

公布される法令、未公表の公文書・法定公告等を、高い水準の正確性や厳格な守秘管理体制により提供

確実な供給・緊急時の対応

公布・公示の効力の発生時期にかかわるため、遅延は許されず確実に提供
個別法において、緊急時における内閣総理大臣からの要請への応諾義務あり

官報サイトアクセス件数及び官報情報検索サービス会員数の推移



官報電子化への取り組み

官報本紙、号外の目次を首相官邸のホームページに提供開始(平成7年~)

過去1週間分の官報が無料で閲覧できる「インターネット版官報」の配信(平成11年~)

過去に発行された官報について日付や記事により有料で検索、閲覧等ができる「官報情報検索サービス」をインターネット上で提供(平成13年~)

電子データの改ざんを防止するため、電子署名及びタイムスタンプの付与を開始(平成15年~)

「インターネット官報」に印刷及びテキスト選択機能を追加(平成17年~)

国立印刷局の工場等の概要



平成19年4月1日現在

工場名	人員	土地面積	業 務
[印刷局]			
本 局	581人	13,303m ²	管理部門
虎 の 門 工 場	532人		官報、国会会議録、法律案、予算書等、政府刊行物
研 究 所 (小 田 原)	126人	10,105m ²	研究開発
滝 野 川 工 場	994人	61,069m ²	日本銀行券、国債、印紙、その他諸証券類
王 子 工 場	330人	47,799m ²	切手、その他諸証券類
小 田 原 工 場	1,030人	247,830m ²	日本銀行券、製紙
静 岡 工 場	369人	72,505m ²	日本銀行券
彦 根 工 場	492人	68,625m ²	日本銀行券
岡 山 工 場	361人	69,444m ²	製紙
東 京 病 院	102人	10,025m ²	
小田原健康管理センター	27人	9,104m ²	
市ヶ谷センター	19人	15,727m ²	研修所、博物館
計	4,963人	625,537m ²	

* 人員は役員除く

貸借対照表

(単位：億円)

科 目	15年度	16年度	17年度
流動資産	506	476	577
固定資産	3,797	3,851	3,805
資産 合計	4,303	4,327	4,382
流動負債	136	133	148
固定負債	1,079	1,061	1,031
負債 合計	1,215	1,194	1,179
資本金	3,008	3,008	3,008
	-	-	-
利益剰余金	80	125	195
	-	-	-
積立金	-	80	125
当期末処分利益	80	45	70
資本 合計	3,088	3,133	3,203
負債・資本 合計	4,303	4,327	4,382

損益計算書

(単位：億円)

科 目	15年度	16年度	17年度
売上高	875	867	835
売上原価	668	704	663
売上総利益	207	163	172
販売費及び一般管理費	143	112	99
営業利益	64	51	73
営業外収益	62	60	60
営業外費用	40	47	56
経常利益	86	65	77
特別利益	-	29	0
特別損失	5	49	7
当期純利益	80	45	70
当期総利益	80	45	70

国庫納付額に相当する金額は、平成15事業年度から当事業年度の積立金の合計額195億円から、恩給負担金等相当額である61億円を除いた額の「2分の1」の67億円である。